

## 『四洲志』と魏源増補による『海國圖志』(3)

—書誌的な比較による『四洲志』の本文の検討—

下河部 行 輝

### 1 はじめに

この報告は、先に『岡山大学大学院文化科学研究科紀要』第11号で記述した〔歐羅巴1〕の続編である。「大西洋歐羅巴洲」と題して各国を収めるのは巻24の「歐羅巴洲總沿革」より英國・愛倫國の巻35までであるが、紙幅の都合で巻31の傾墨國(大尼國)を取り扱う。第11号を報告した後、中国の上海の知人とその友人の報告等からと<sup>(註1)</sup>、従来の私の調査と合わせて、私としては中国本土においても『四洲志』の存在は疑問に思えてきたのである。そのために、「小方壺齋輿地叢鈔」と『海國圖志』50巻本とのこの比較は大変に重要なことになるのである。中国における『四洲志』の存在は当然のことながら今後も調査の手を緩めるものではない。以下前回同様に、『四洲志』と『海國圖志』との本文の比較検討をしていく。

### 2 『四洲志』と『海國圖志』との巻毎の照応について

略記号については、11号と同じであるが、再度概略しておく。○印は『四洲志』の本文であるとともに、『海國圖志』の本文をも示す。★印は、魏源の注記や考察した文を示す。☆印は魏源の引用した諸本と、その本文を示す。□印は『四洲志』にはなくて、『海國圖志』に記された題目と注記を示す。

『四洲志』は一行40字で、一行に二行割りで印刻された場合は、小字で40字となる。従ってその場合は、一行が80字となる。又『海國圖志』の本文中の割り注も前々回の10号と同様な形式で示す。『海國圖志』は『四洲志』とは違って、一行21字、二行割りの小字は一行42字である。

〔四洲志二十一～二十二〕

〔海國圖志卷二十八〕(3)

○『意大里亞歐羅巴中央之區～小部落六俱奉加特力教』24行

歐羅巴人原撰

この箇所は意大里亞、里渣赤部、達斯加尼部、沙里尼阿部、那勃爾斯部、馬領那部、磨里那部、納加部、巴麻部、伊塞特里那部即摩那戈にそれぞれ以下のように説明が付される。短い例ので示そう。

□大西洋 歐羅巴洲(二行書) 侯官林則徐譯

邵陽魏源重輯

□意大里亞國總記 一作伊達里又名羅汶國一作羅問一作羅馬一作那馬

★案利馬寶即此國人始通中國自稱大西洋人非今澳門

里渣赤部 東西南界海北界敏蘭 (二行書)

之大西洋國也又案凡地名未亞字阿字皆其餘聲可有可無故意大里亞一作伊達里又如班那里阿一作寒牙里語厄利亞即英吉利印第亞即印度又如歐塞特里阿一作歐塞特里故知尾聲皆可省

○『意大里亞歐羅巴中央之區～合同歸海長各四百里餘里』14行

☆貿易通志曰「意大里國～政令不善故貨滯不銷 (此條補入一、二行書) 8行

○「意大里亞即古羅汶國～小部落六俱奉加特力教』36行

この箇所と「四洲志」との相違は、各部の前に次の例示のように「里渣赤部」以下「伊塞特里那部即摩那戈」に「一」が冠せられることである。

例、一里渣赤部東西南界海北界敏蘭 (二行書)

□意大里國沿革 原無今補 (二行書)

— ☆職方外紀95行注2あり

— ★案 此乃歐羅巴之總教皇也

— ★案 此古時疆域也～該括全洲

— ☆明史約66行

— ★案 鄧玉函耶馬尼人龐迪我呂宋人陽瑪諾布路亞人譯音之殊

— ☆皇清四裔考75行

〔職方外紀〕

四洲志と海國圖志の本文	海國圖志の中の魏源の注
羅馬古爲總王之都	故又稱爲羅馬國
戚五六十人分領教事	此乃各國分主教化之法王也

〔四洲志二十二～二十五〕

〔海國圖志卷二十九〕

○『耶瑪尼舊轄大小三十有奇爲歐羅巴～兵來援始得退敵』98行

この箇所は「耶瑪尼」の説明の後、「耶瑪尼分國一」から「耶瑪尼分國二十五」まで小字で冠されて、それぞれについて記されている。

一例を示そう。

例 耶瑪尼分國七（ 二行書小字 ）色西威麻

東界哈爾領麥西界普魯社南界魯那爾斯達北界普魯社（一行二行書小字）

土瘠而勤力作幅〔巾+員〕 千四百二十七方里戸二十萬一千口領小部落二俗奉波羅

特士頓教先屬耶瑪尼後自爲國產羊羴これらが連続的に書かれる。

歐羅巴人原

□大西洋 歐羅巴洲（二行書） 侯官林則徐

邵陽魏源重

□耶瑪尼國總記 一作熱爾瑪尼一作作者爾麻尼  
一作亞勒馬尼一作亞墨尼一作日耳曼一作阿理曼一作亞咩理隔

○『耶瑪尼舊轄大小三十有奇爲歐羅巴～其兵自十九歲以至三十歲者充伍』（原本）14行注2あり

☆貿易通志5行（此條補入）

○「耶瑪尼國一」注1あり

○「麻注里阿～金線銀線」約6行

○「耶瑪尼國二」注1あり

○「塞循亦耶瑪尼～布帽襪磁器」約12行

—以下二十五までタイトルを別立てにすると、ころが、「四洲志」と相違する。以下部立てとしての項目と本文の行数を示す。本文に魏源の注が入らないかぎりタイトルと本文であることを意味する。

○「耶瑪尼國三」本文約9行注1あり

○「耶瑪尼國四」本文約8行

○「耶瑪尼國五」本文約6行

○「耶瑪尼國六」本文約10行

└─ ★案 凡所屬別無小部落者謂之獨部落猶中國屬縣之眞隸廳

- 「俗奉波羅特士頓教～産銅鐵苧麻鹽煙麥」7行
- 「耶瑪尼國七」本文約3行
- 「耶瑪尼國八」本文約11行
- 「耶瑪尼國九」本文約約3行
- 「耶瑪尼國十」本文約4行
- 「耶瑪尼國十一」本文約5行
- 「耶瑪尼國十二」本文約4行
- 「耶瑪尼國十三」本文約4行
- 「耶瑪尼國十四」本文約11行
- 「耶瑪尼國十五」本文約5行
- 「耶瑪尼國十六」本文約4行
- 「耶瑪尼國十七」本文約7行
- 「耶瑪尼國十八」本文約4行
- 「耶瑪尼國十九」本文約3行
- 「耶瑪尼國二十」本文約7行
- 「耶瑪尼國二十一」本文約8行
- 「耶瑪尼國二十二」本文約7行注1あり
- 「耶瑪尼國二十三」本文約4行
- 「耶瑪尼國二十四」本文約5行
- 「耶瑪尼國二十五」本文約4行
- 「魯密四圍俱～兵來援始得退敵」
- 耶瑪尼國沿革 原無今補（二行書）
- ☆職方外紀19行
- ☆海録9行注2あり
- ☆皇清四裔考10行注2あり
- ☆每月統紀傳曰21行

[耶瑪尼國總記]

四洲志と海國圖志の本文	海國圖志の中の魏源の注
温多里	舊舅之人夷語曰温多里
千八百年	嘉慶五年

[耶瑪尼國一]

耶蘇紀年千有三百時	元成宗大德四年
-----------	---------

[耶瑪尼國二]

千八百年一十三年	嘉慶十八年
----------	-------

[耶瑪尼國三]

耶瑪尼國三	今屬英吉利
設立底表第	官名

[耶瑪尼國二十二]

耶蘇千年時	宋眞宗三年
-------	-------

[海録]

亞咩里隔國	即耶瑪尼國也
大分國數十各有王	即志中所分二十五國也

[皇清四裔考]

教王立之	即所謂意大里亞之教皇也各國王即位必得其札付乃立
皆選此國人充之	即所謂耶瑪尼之紅面兵也

[四洲志二十五~二十七]

- 『歐塞特里國本耶馬尼~開路修橋兵二萬有六百』約5行
- 「歐塞特里國東界俄羅斯~産鹽穀蜜糖樹木」(一行二行書)約10行

[海國圖志卷三十]

- 歐羅巴人原
- 大西洋 歐羅巴洲 (二行書) 侯官林則徐 邵陽魏源重
- 歐塞特里國★案 職方外紀中莫爾大末亞即歐塞特里也圖中博厄美厄即寒亞里也英夷圖中亦作奧地利亞又里有阿字粵人呼曰雙鷹
- 『歐塞特里國本耶馬尼~開路修橋兵二萬有六百』約9行

- 『寒牙里俗舊～絲髮蜜煙苧麻』約12行
- 「寒牙里東界都魯機～産穀蜜糖」（一行二行書）約7行
- 「歐塞特里國東界俄羅斯～産鹽穀蜜糖樹木」38行
- 寒牙里國附記一作博厄美厄  
一作班那里阿
- 『寒牙里俗舊～絲髮蜜煙苧麻』約23行注3あり
- 「寒牙里東界都魯機～産穀蜜糖」（一行二行書）約27行
- 歐塞特里國沿革  
☆海録3行
- ★案 雙鷹旗即歐色特里國單鷹旗即普魯社國故  
與都魯機毘連廣東人以其市舶旗所畫呼之  
非其本名也
- ☆貿易通志4行（此條補入）

〔寒牙里國〕

四洲志と海國圖志の本文	海國圖志の中の魏源の注
耶蘇紀年四百	晉安帝隆安四年
耶蘇千年時	宋眞宗咸平三年
千四百年	明建文四年

- 『波蘭國即古時之麻底阿～部落亦前馴帖』約10行
- 「波蘭國東界～一方不歸波蘭所轄』約3行（一部一行二行書）
- 波蘭國附格那耦
- ★案 此即職方外紀圖之波羅尼也
- 『波蘭國即古時之麻底阿～部落亦前馴帖』20行注3あり
- 「波蘭國東界～一方不歸波蘭所轄』6行
- 波蘭國沿革  
☆職方外紀（原無今補）（二行書）約12行

[波蘭國附格那]

四洲志と海國圖志の本文	海國圖志の中の魏源の注
波蘭	里都阿那者戰方外紀作里都亞尼正在洲中海東岸以與波蘭合國故其海亦名為麻底阿海云
千七百七十餘	乾隆三十餘年
千七百九十有二年	乾隆五十七年

- 『綏林與那威同屬一區～産鐵十五萬梱達』約 25行
- 「綏林國四部東界～特倫領小部落一」(一行二行書) 約 6 行
- 綏林國那威國總記★源案那威即職方外紀圖之玻的亞其海名波的海者也綏林則所謂匪馬爾如也總名曰斯于厘那委阿
- 『綏林與那威同屬一區～産鐵十五萬梱達』約 51行注 3 あり
- ★源案耶麻尼海則莊氏圖所謂斯多各海在歐羅洲之内凡大尼國綏林國皆在此海之北耶麻尼海與麻爾底海實一海隨地異名也麻爾底海即波的海音譯之殊也皆所謂洲中海
- 「綏林國四部東界～特倫領小部落一」(皆原本) 23行

四洲志と海國圖志の本文	海國圖志の中の魏源の注
耶蘇紀年九百後	唐昭宗光化三年
千五千二十年 (ママ)	明武宗正德十五年
千七百年	康熙三十九年

[四洲志二十七～二十八]

[海國圖志卷三十一]

- 歐羅巴人原
- 大西洋 歐羅巴洲 (二行書) 侯官林則徐 邵陽魏源重
- 領墨國 亦名大尼國亦名盈黎馬祿加國即來粵貿易之黃旂也

- 『領墨國在耶麻尼之西凸出洲中海～産大呢糖  
稻米麥』約13行
- 「領墨國即黃旂東西南俱洲中海～塞力斯稔領  
小部落三』約2行（一行二行書）
- 『領墨國在耶麻尼之西凸出洲中海東北三面  
俱海』
  - ★源案據此志則國在洲中海南明也乃海録則謂  
黃旂國在綏亦古西北同一海島職方外紀謂歐  
羅巴西北有四國曰大尼亞曰薊爾物亞曰雪際  
亞曰鄂底亞貿易通志大尼即黃旂而黃旂亦爲  
海北之國矣其爲一國兼跨海南國北無疑蓋來  
粵貿易者皆北岸之人故粵人謂其國在海北志  
中紀其本國則又在海南也
- 「南抵抗耶麻尼之伊爾河～産大呢糖稻米麥」  
約23行注1あり
- 「領墨國即黃旂東西南俱洲中海～塞力斯稔領  
小部落三』約6行
- 大尼國沿革（原無今補）（二行書）
  - ☆職方外紀18行注4あり
  - ☆每月統紀傳38行（此條補入）（二行書）
  - ☆貿易通志3行（此條補入）（二行書）
  - ☆海録4行注2あり

〔領墨國〕

四洲志と海國圖志の本文	海國圖志の中の魏源の注
千有十七年	宋眞宗天禧元年

〔大尼國沿革〕職方外紀

大泥	領墨國北岸地
諾而勿惹	瑞國北岸地
雪際	璉國
鄂底	惟此國與廣東通市否未詳



〔大尼國沿革〕 貿易通志

與綏亦古同一海島	綏亦古即瑞國即來粵之藍旂
即來廣州黃旗船是也	四洲志謂之領墨國在洲中海之南即貿易通志之大尼國以其皆謂黃□知之 地而地則跨在海北

- 『瑞國綏沙蘭古曰～産麥穀鐘表袈裟布麻布』 約11行
- 「綏沙蘭即瑞國東北俱～小部落三十有五」約 10行（一行二行書）
- 歐羅巴洲瑞國★源案職方外紀謂之大爾馬齊亞 疑此國跨洲中海南北兩岸觀英夷所繪地圖以瑞 丁繪于洲中海之北與士尼相連正合海録在英吉 利西少北之語但與全志大不合貿易通志亦稱瑞 丁爲北方之國與同與志異若國在海北安能佛與 蘭西意大里耶馬尼歐塞特里等犬牙相錯耶其跨 海南南北兩岸無疑蓋志述其國都所在圖則專指 其海舶通市之大埠也
- 『瑞國即綏沙蘭古曰～産麥穀鐘表袈裟布麻 布』 21行
- 「綏沙蘭即瑞國～大部落四小部落三十有五」 39行
- 瑞國沿革（原無今補）（二行書）
- ☆皇清四裔考12行
- ☆海録 4 行
- ★案綏亦古即瑞國也粵人謂之藍旗本國在海南此 其貿易之埔跨在海北者
- ☆貿易通志 3 行
- 附璉國★案此國與廣東通市職方外紀貿易通志 並有其名而四洲志無之今録四裔考于瑞國後
- ☆皇清四裔考 6 行

3 小まとめ

これまで示してきたように、「小方壺齋輿地叢鈔」所載の『四洲志』と『海國圖志』の中の林 則徐訳とされる本文とは基本的に同じとすることが出来る。★案や、★源案は魏源の感想や注釈で あるが、引用書目の注以外は、全てが引用書のままであると言える。これについては、佐々木正哉 氏が『海國圖志』餘談（『近代中国』第17巻）で手厳しく評価している。魏源が「四洲志」にど れくらい増補したか、各国、各地方毎にどの様な引用をとれだけしたかを結果的には示すことに

なったのであるが、佐々木氏の論を裏付けることにもなった。

注1 岡山関西高等学校の中国語の元教諭で、現在上海大学国際商学部で日本語を教えておられる桑山哲郎氏の尽力で入手した次の資料を参照した結果である。(尚 簡化字は日本の表記に直してある。)

来 新夏編著 林則徐年譜新編 南開大学出版社 1997. 6. 第1版

馬 西尼著 黄河清訳 現代漢語詞匯的形成 漢語大詞典出版社 1997. 9 第1版

陳 華 著 「有関『海國圖志』的若干問題」(『求索』1988. 第3期所収)

#### 参考文献

海國圖志(50巻本) 道光24年邵陽魏氏古微堂刻本(1844) 十二冊二函 北京大学蔵本

小方壺齋輿地叢鈔 南清貿易堂印行 岡山大学付属図書館蔵

鎖国時代 日本人の海外知識 乾元社 昭和28. 5. 15.

- この報告は平成13年度の科学研究費による。